

## <報 告>

# 広島大学ダイバーシティ & インクルージョン推進機構特別支援教育実践センター 令和6年事業報告

## I. はじめに

本センターは、特別支援教育分野に関する基礎的・実践的研究を推進するとともに、教育相談や研修活動等を通じて地域社会に貢献することを目的としている。ここでは、本センターが実施している教育相談・臨床活動、研究活動、研修活動および地域貢献活動について報告する。

## II. 令和6年事業報告

### 1. 教育相談・臨床活動

令和6年1月1日から12月31日までに、特別支援教育実践センター職員、および教育相談員として特別支援教育学領域教員が実施した教育相談・臨床活動の障害種別の実績を Table 1に、年齢別の実績を Table 2に示した。新型コロナウイルス感染拡大防止のために令和2年度から開始したオンラインによる教育相談についても、継続して実施した。なお、今年度よりオンラインによる教育相談を有料化した。対面による相談者の居住地域は広島県内を中心としている(東広島市、

呉市、広島市)が、県外からも来所者がある。広島市や呉市の眼科、内科にて、出張教育相談も複数回行った。また、広島県内の小・中・高等学校の教員に対するスーパーバイズ、広島県内の特別支援学校技能検定の実施協力、その機会を利用した本学学生向けのキャリア教育・職業教育に関する学習機会の提供なども複数回実施した。

### 2. 研究活動

(1) 広島大学特別支援教育実践センター研究紀要第22号を発行した。受理された原稿は、原著論文1編、実践研究3編、資料3編であった。

(2) 教師教育デザイン学プログラムの教員の協力を得て、広島大学が実施する履修証明プログラム「特別支援教育担当教員育成プログラム(基礎コース)」を3科目開設し、10名の受講登録があった。(令和3年度より実施)

(3) ダイバーシティ & インクルージョン推進機構研究員及び学内教員の協力を得て、広島大学が実施する履修証明プログラム「ダイバーシティ・インクルージョン研修プログラム」を4科目開設し、23名の受講登録があった。(令和6年度より実施)

(4) 附属東雲小・中学校と連携し、共同研究「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力Ⅲ-教科等の特性に応じた児童・生徒の見取りを通して-」を実施した。

(5) 文部科学省「令和5年度特別支援教育に関する実践研究充実事業(その他施策上の改善のための調査研究)」に採択され、広島県教育委員会、国立特別支援教育総合研究所西日本ブランチ広島オフィスと連携しながら、「コアカリ対応特別支援学校教諭免許状認定講習プログラム」の開発に向けてニーズ調査や講習等を実施した。(令和5年度より実施)

(6) 広島大学教育ビジョン研究センター(Educational Vision Research Institute: EVRI)や広島市立広島みらい創生高等学校、広島市立井口中学校、広島市立皆実中学校、広島大学附属東雲中学校と連携し、公益財団法人日本生命財団助成による「学びのユニバーサルデザインに基づく日本型インクルーシブ教育システムの

Table 1 教育相談・臨床活動のべ件数(障害種別)

	対面	対面以外(OL等)
視覚障害	32	4
聴覚障害	10	0
知的障害	71	0
肢体不自由	19	0
言語障害	8	12
発達障害	174	1
その他	0	0
合計	314	17

Table 2 教育相談・臨床活動のべ件数(年齢別)

	対面	対面以外(OL等)
0~6歳(乳幼児期)	26	0
6~12歳(学童期)	165	1
12~15歳(青年前期)	65	0
15~18歳(青年中期)	18	0
18歳以降(青年期)	40	16
合計	314	17

ロールモデルの開発」を実施した。

(7) 文部科学省「音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究」事業を受託し、広島大学図書館と協力して、センターの利用者をはじめ、全国202名の児童生徒にUD-Book教科書を累計1287点(226タイトル)出荷し、利用状況を調査した。また全国学校教員及び指導主事などの指導者52名に対しUD-Book教科書を提供し、読みに困難のある児童生徒の指導に貢献した。(令和元年度より受託)

(8) ソーシャルメディアサイトや全国ホームスクーリング協会(会員数3000人)を通じて調査を発信し、日本におけるホームスクーリングに関する研究を開始した。

### 3. 研修活動・地域貢献活動

#### 学生対象の行事

(1) RCC ラジオのラジオチャリティ・ミュージックソン「おはようフォーカス(12月25日)」に出演し、広島大学の視覚障害教育の教員養成等についてインタビューを受けた。

(2) 特別支援教育実践センター及びウェルビーイング推進室が中心となり、令和6年11月16日(土)・17日(日)にインクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島2024に参加し、学生のべ38名が運営補助ボランティアを行った。

(3) HUSA 学生が主に受講する特別支援教育基礎論の一環として、令和6年11月19日(火)・12月3日(火)に東広島市内特別支援学校を訪問し、授業見学や国際交流を行った。

(4) 附属東雲中学校の特別支援学級に在籍する生徒の職場体験学習を受け入れた。本事業に参加した学生は12名で、生徒が行う作業の補助等を行った。

(5) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、令和6年4月20日(土)に、広島大学にて新入生オリエンテーション領域行事を実施した。参加者は、外部講師として4名の現職教員、学部1年次生29名、2～4年次生8名、大学院博士課程前期学生6名、特別専攻科学生12名、教員10名の計69名であった。

(6) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、令和6年6月23日(日)に「就職指導講話(マナー講座)」を開催した。参加者は、外部講師1名、学生27名(3年次生24名、4年次生3名)、特別専攻科学生12名、特別支援教育学領域教員4名の合計44名であった。

(7) 日本語・日本文化特別研修を実施し、長春大学学生10名が参加した。

#### 講習・講演

(1) 令和6年度免許法認定講習会(教育委員会主催)を広島県及び県外(山口、香川、鳥取)で実施した。

(2) 広島県内特別支援学校における公開授業研究会で指導助言や講演を行った。

(3) 小学校、中学校、高等学校において、のべ3回の指導助言や講演を行った。

(4) EVRIが実施する「日本国広島大学と中国長春大学との共同教育プログラム」に、「障害乳幼児の理解」(16コマ)、「障害乳幼児の指導」(16コマ)の授業を提供した。

(5) 令和6年度中国地区ろう教育研究会自立活動サークル研究会において、指導助言を行った。

(6) 令和6年度中国地区ろう教育研究会中学部教育研究会において、指導助言や講演を行った。

(7) 京都スーパーサポートセンター主任研修会「見えにくさのある児童生徒に関わる指導者研修会」において2回講師を務めた。

(8) 広島市教育委員会主催の特別支援教育コーディネーター研修を担当した。

(9) 広島市こども未来局主催のICT機器活用講座において、保護者を対象に講義と演習を行った。

(10) 安田女子中学高等学校において、模擬授業を行った。

(11) 児童発達支援・放課後等デイサービス「ツボミ園」において、指導助言や講演を行った。

#### 研修会、シンポジウム、ワークショップ等の開催

(1) 令和6年9月4日～6日に西オーストラリア州パースで行われたオーストラリア特別教育協会全国会議「Des English Memorial Lecture: 特別で包括的な教育におけるテクノロジーの場所」にて招待基調講演を行った。

(2) 令和6年8月7日に「女性と女兒のエンパワーメントプロジェクト」をオンラインにて開催した。

(3) ドイツ Schloss-Schule Ilvesheim (イルフェスハイム盲学校)、及び Nikolauspfl ege Betty-Hirsch-Schule 2 (盲学校) にて、アメリカ・イギリス・ドイツの研究者と共に、教員を対象に視覚障害者の数学教育の触覚教材についてワークショップを行った。

(4) 特別支援教育実践センターが主催し、Chris Forlin 氏(元・オーストラリアノートルダム大学教授)を招聘し、令和6年4月22日(月)にインクルーシブ教育セミナーを開催した。

(5) 特別支援教育実践センターが主催し、南浦涼介

氏（広島大学准教授）、尾花日向子氏（広島大学大学院生）を登壇者、North Cooc氏（テキサス大学オースティン校准教授）を指導助言者として招聘し、令和6年12月9日（月）に「外国にルーツのある子どもたちの教育研究会」を開催した。

#### 他機関との共催事業

(1) ダイバーシティ & インクルージョン推進機構が主催、国立特別支援教育総合研究所と共催し、Vish Viswanath氏（ハーバード大学教授）、Antti Kauppinen氏（ヘルシンキ大学教授）、Joe Hironaka氏（タイ・バンコクユネスコ地域事務局C&I担当アドバイザー）、棟方哲弥氏（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）、保井俊之氏（叡啓大学教授）を招聘し、令和6年3月24日（日）に広島大学ダイバーシティ & インクルージョン推進機構・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウムを開催した。また、同日に広島大学ダイバーシティ & インクルージョン推進機構設置記念式典および記念講演会を実施した。

(2) 特別支援教育実践センターが主催、広島大学教育ヴィジョン研究センターと共催し、Vish Viswanath氏（ハーバード大学教授）、Antti Kauppinen氏（ヘルシンキ大学教授）、Joe Hironaka氏（タイ・バンコクユネスコ地域事務局C&I担当アドバイザー）、棟方哲弥氏（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）、保井俊之氏（叡啓大学教授）、丸山恭司氏（広島大学教授）を招聘し、令和6年3月25日（月）にシンポジウム“Global Perspectives on Wellbeing and Inclusion”を開催した。

(3) 特別支援教育実践センターが主催、国立特別支援教育総合研究所と共催し、Jenniffer Gallup氏（アイダホ州立大学准教授）、織田晃嘉氏（国立特別支援教育総合研究所主任研究員）、平嶋宗氏（広島大学教授）、山本幹雄氏（広島大学准教授）を登壇者として招聘、本センターのDianne Chambers氏（広島大学特任教授）を加えて、令和6年8月3日（土）に第2回ジョイントセミナー「特別支援教育とインクルーシブ教育を支えるテクノロジー」を開催した。

(4) 令和6年10月23日（水）～10月25日（金）に開催されたInternational Network of Educational Institutes (INEI) 年次総会の運営協力を行った。

(5) ダイバーシティ & インクルージョン推進機構ウェルビーイング推進室と特別支援教育実践センターが主催し、Ahsan R. Junaidi氏（インドネシア国立マラン大学准教授）、Ediyanto氏（インドネシア国立マ

ラン大学助教）、Lukman Hakim氏（ユダルター大学助教）、Tata Gading氏（インドネシア国立マラン大学大学院生）、Sri Saktiani氏（サクティ・ブルマタハティ・イブ小学校校長）を招聘し、令和6年10月30日（水）に「インクルーシブ教育とテクノロジー—インドネシアからの視点と実践—」を開催した。

(6) ダイバーシティ & インクルージョン推進機構が主催、国立特別支援教育総合研究所と共催し、Alberto Prati氏（ロンドン大学助教・オックスフォード大学研究員）、Jessica Doty氏（コロラド大学ボルダー校副学長）、檜井孝夫氏（広島大学教授）、大崎博史氏（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）を招聘し、令和6年11月23日（土）に第3回ジョイントセミナー「ダイバーシティ、インクルージョンとウェルビーイングの新たな連携—相互支援と共生を促進する持続可能な未来へ—」を開催した。

(7) 特別支援教育実践センターが主催、国立特別支援教育総合研究所と共催し、North Cooc氏（テキサス大学オースティン校准教授）、奥村安寿子氏（広島大学准教授）、滑川典宏氏（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）を招聘し、令和6年12月8日（日）に第4回ジョイントセミナー「外国にルーツのある子どもたちのインクルーシブ教育」を開催した。

(8) 影山和也氏（広島大学教授）の協力を得て、Dor Abrahamson氏（カリフォルニア大学パークレー校）とNorth Cooc氏（テキサス大学オースティン校准教授）を招聘して、令和6年12月10日（火）に「インクルーシブ教育研究会」を開催した。

#### 学校等への訪問、相談活動等

(1) 広島市教育委員会専門家巡回相談事業の巡回相談員として、のべ9校を訪問し、小学校と中学校教員に対する研修、助言を行ったり、オンラインでの指導サポートを行ったりした。

(2) 広島市内中学校および東広島市内小学校のべ3校を訪問し、外国につながる子どもたちの教育に関する指導助言を行った。

(3) 広島県内特別支援学校において学校運営協議会委員を担当した。

(4) 広島県立広島中央特別支援学校において「触る彫刻鑑賞ワークショップ」開催に協力した。

(5) 「視覚障害児のための科学ヘジャンプイン香川2024」の開催に協力した。

## 学生派遣等

(1) 特別支援教育学生サポーター派遣事業を実施した。本事業に参加した学生数は26名で、東広島市内16校の小・中学校に派遣した。派遣については、事前指導（発達障害児等への指導等について）を行った。

(2) 中国・北京師範大学、中国・長春大学、韓国外国語大学、タイ・カセサート大学、インドネシア教育大学、米国・セントクラウド州立大学と e-START プログラム（前期）Cultivating a Caring and Inclusive Society for All を実施し、本学53名を含む、のべ人数85名の学生が、学校教育におけるダイバーシティ、インクルーシブ教育や社会におけるインクルージョンの在り方について学んだ。米国セントクラウド州立大学を除く、上記大学と e-START プログラム（後期）Fostering Diversity, Equity, and Inclusion in School を実施し、本学31名を含む、のべ人数55名の学生が受講した。

(3) 「インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成2021年度大学の世界展開力強化事業」の一環として、令和6年8月20日（火）～8月24日（土）まで“Campus Asia Plus Summer School

in Hiroshima”の実施協力を行い、ダイバーシティ・インクルージョンに関する講義を提供した。

(4) 広島県立広島中央特別支援学校高等部生徒の広島大学総合博物館等訪問に協力し、学生ボランティア7名が移動支援等を行った。

## 4. 高校生の技能検定、中学生の職場体験学習等

(1) 広島県教育委員会が主催する「令和6年度広島県特別支援学校技能検定（接客）」について開催に協力した。第一回7月6日：参加者22名、第二回10月19日：参加者29名

(2) 附属東雲中学校特別支援学級に在籍する生徒4名の職場体験学習を受け入れた。

## 5. 国立特別支援教育総合研究所との連携

(1) 専門研修企画会議に参加した。

(2) 令和5年度第三期特別支援教育専門研修（肢体不自由教育、聴覚障害教育）、令和6年度第一期特別支援教育専門研修（言語障害教育）において講師を担当した。